

ストラヴィンスキー/若い象のためのサーカス・ポルカ

ロシア出身の作曲家たちの音楽を楽しむ今日のコンサート、幕開けはストラヴィンスキー（1882-1971）の茶目っ気を思わせる小品である。1942年、バーナム・ベイリー・サーカスの象によるバレエのために吹奏楽として作曲されたポルカで、ポスターでは「奇抜な振付の離れ業をみせる50頭の象と50人の美少女」と宣伝されている。少なくとも424回サーカスで上演されたとのこと。オーケストラ版は44年、作曲家自身が編曲。きちっと書かれ、わずか4分弱の中にもリズムの工夫が凝らされている。全体に快活な軍楽の雰囲気、終わりの方にシューベルトの《軍隊行進曲》からの引用がある。

白石美雪

楽器編成：ピッコロ、フルート、オーボエ2、クラリネット2、ファゴット2、ホルン4、トランペット2、トロンボーン3、チューバ、スネアドラム、バスドラム、シンバル、弦5部（スコア上の表記）

※掲載された曲目解説の無断転載、転写、複写を禁じます